



★第1部 竹山独奏

- | | |
|-------------|------------|
| 1. 三味線じゃんから | 5. 津軽じゃんから |
| 2. 三味線よされ | |
| 3. 津軽三下り | |
| 4. 津軽音頭 | |



★第2部

- | | | | |
|-----------|-------|---------------------|-------|
| 1. あいや節 | 竹子 | 6. 朝鮮民謡「アリラン」による独奏曲 | 竹山 |
| 2. 子守唄変奏曲 | 竹子 | 7. 中国の琵琶に模して | 竹山 |
| 3. 三味線口説 | 竹子 | 8. 東北民謡による三味線二重奏 | 竹山・竹子 |
| 4. 津軽山唄 | 竹山・竹子 | 9. 津軽民謡による | 竹山・竹子 |
| 5. よされ節 | 竹山・竹子 | 10. 即興曲「岩木」 | 竹山 |



曲目解説

♪ 津軽三下り (3'01")

江戸時代後期、北国街道と中仙道に栄えた追分宿の飯盛女たちや、旅人相手の酒席でうたっていた酒盛り唄う「馬方三下り」が、替女や座頭などによって全国へ広められた所、津軽へも持込まれ、津軽の芸人たちの手にかかると、他所の「馬方三下り」とは似ても似つかない技巧沢山の、華麗な曲へと変化していった。三下りの艶さと、左手が次の壺にかかると、糸をしごくこの時生じる音の面白さや、なんともいって一番の魅力である。

♪ 津軽音頭 (2'59")

この曲は、明治30年代のはじめ、西津軽郡森田村出身の成田雲竹がまだ子供の頃祖父の源助爺さんや成田雲竹を膝の上に乗せてうたっていたというもので、秋田からくる門付芸人の秋田坊がうたっていた「秋田節」であった。これを大正の末に、成田雲竹が「津軽音頭」と改名したのである。ところがこの唄には伴奏がなく、おおかた口三味線だけを成田雲竹が覚えていて、これを元にした高橋竹山が復元したのである。この伴奏は、琵琶のような手で、一般の人々は弾きこなせず、高橋竹山一代限りのものかもしれない。